

## 「主権者である自覚」

高塚 春那

私は、選挙や政治について考えることが全くと言っていいほどありません。正直、関心や興味がないのです。テレビで政治や選挙のニュースが放映されていても、情報が全然頭に入ってきません。国会の様子や政治家の記者会見などが流れているとチャンネルを変えてしまいます。政治家の間やアナウンサーの間で飛び交う言葉に馴染みがなく、真剣に聞こうとしても理解できないことが多いのです。周りの友人に選挙や政治についてどのような意識があるのか尋ねてみると、内容が難しい、面白くない、自分が関心を持ったところでどうにもならない、といった意見が多くありました。日本では、若者の選挙や政治への関心の低さが問題となっています。それぞれに事情があるとは思いますが、主に、知識不足であることや他人事に考えていることが理由に挙げられるのではないかと感じました。主権者教育などを受けて、選挙や政治は他人事でないとその時に学んだはずなのに、今、その学びが生かされていないのが事実です。この問題を解決するにはまだまだ時間と工夫が必要になりそうです。わけもんの主張の作文を書いている今、私はどうすれば政治や選挙に関心を持てるか考えています。もしかすると、この作文を書くことも、選挙や政治に関心を持つ1つのきっかけになるかもしれません。また、選挙や政治に関心を持つきっかけとして、選挙権は大きな存在だと思います。実際、私が18歳になって選挙権が与えられ、投票券が家に届いた時はとても嬉しかったです。写真まで撮って今でも残っています。少し大人になれた気分がして、選挙権を持って最初の選挙にははりきって参加しました。短期間でしたが、唯一、私が選挙に関心を持てた初めての瞬間です。投票をするとすると、いい加減にするわけにはいきません。普段は触れもしない新聞に目を通してみたり、インターネットで立候補者について調べたりと、1つでも多くのことを知ろうとしました。しかし、理解できる、納得のいく情報を見つけるのは容易ではありませんでした。私は実家暮らしなので情報を得る手段として新聞もありましたが、若者の一人暮らしで新聞をとっている人は、あまりいないのが現状です。インターネットなどで得られる情報がなければ、手も足も出ない状況の若者は大勢いると思います。情報が手元になれば何も始まりません。若者が情報を得るためには、やはりスマートフォンを利用する人が1番多く、親しみやすいものです。フェイスブックやインスタグラム、ツイッターなどのSNS、インターネットをもっと大いに利用されていると、身近なものに感じられて良いのではないかと思います。選挙権は、少子高齢化や人口減少社会を迎えた日本にとって、若い世代がより早く選挙権を持つことで、社会の担い手であるという意識を持ち、主体的に政

治にかかわる若者が増えて欲しいということから、18歳にまで引き下げられました。それなのに、10代の投票率が低いのでは意味がありません。中学、高校の授業で学び、ほとんどの人が選挙権の歴史を知っていると思います。日本の選挙権は、高い国税を納められる25歳以上の男性から始まりました。これは全人口のおよそ1パーセントになります。こんなにも貴重な権利だったものが、今は自分たちにあるのです。そもそも選挙は、私たち国民が納めた税金の使い道を決める政治家を選ぶものです。だから、その政治家を選ぶ権利はたくさんの税金を納めている人が決めればよい、という考え方が昔はされていました。しかし、1部の人たちだけが国のあり方を決めるはおかしい、という運動が次第に広がり、平等に選挙権が与えられるようになったのです。さらに、今では期日前投票制度や不在者投票制度、在外選挙制度など、様々な状況を考慮された、私たちが投票しやすいような仕組みも整えられています。これには多くの人たちの大変な努力があったに違いありません。日本は、国民全員の自由や平等などの人権が尊重され、自分たちの国を自分たちのために自分たちで作りあげていく、民主主義国家です。国の在り方を決める政治、その中心となる政治家を決めることは決して他人事ではありません。このことをもう1度しっかり認識することが大切だと思いました。目の前にあるその1票の投票券は、地域や日本をより良く変えるための大きな力を持っています。たった1票と思うかもしれませんが、その1票で国が大きく変わる可能性は十分にあります。私たちはもっと、自分の住む地域、自分の国である日本に関心を持ち、選挙権を持つことに感謝し、責任を持つべきだと考えます。